

報 告

# 親の性役割態度が幼児の社会的行動に及ぼす影響

## — 母親の就労との関係 —

Effects of parents' attitudes toward gender roles on children's social behaviors  
— relation to being a working mother —

坂口由紀子, 佐鹿 孝子

Yukiko Sakaguchi, Takako Sashika

キーワード：親の性役割態度, 幼児の社会的行動, 母親の就労

Key words : parents' attitudes toward gender roles, children's social behaviors, mother's employment

### 要 旨

母親の就労形態別に、親の性役割態度が子どもの社会的行動に及ぼす影響を検証するために、3～6歳の幼児1,212名の親を対象に自記式質問紙調査を実施した。母親が常勤の場合は母親の伝統的性役割態度が、パート就労の場合は父親の伝統的性役割態度が、母親が無職の場合は母親の平等主義的性役割態度が、幼児の社会的行動に負の影響を与える傾向があった。母親の就労形態別に比較することで、親の性役割態度が子どもの社会的行動に及ぼす影響が明らかとなり、育児支援を実施する際には、親の就労形態と合わせて親の性役割態度を把握することの重要性が示唆された。

### I. はじめに

近年、性役割態度が平等主義的になりつつある。内閣府の男女共同参画社会に関する世論調査によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という設問に対し、平成14年に初めて「反対」が「賛成」を上回り、平成19年には「反対」が52.1%となり、「反対」とする者の割合が年々上昇している（内閣府, 2007）。しかし、実態としては、母親の就労状況のM字曲線（民主教育研究所, 2008）に表わされるように、幼少期の子どもをもつ母親に対して、未だに伝統的役割を推し進める社会であるといえる。

親の性役割態度と養育態度に関する先行研究では、0～3歳児をもつ母親の伝統主義的性役割態度が、子ど

もをたたく・つねるといった行動や、くよくよ考え込むなどというような否定的養育行動に対して有意な影響を示すことが明らかとなっている。「男は仕事、女は家庭で家事・育児を担当するのが望ましい」とした伝統的性役割態度が強い母親の場合、自身の役割意識によって育児に困難をきたしてしまう可能性が示唆された（玉里ら, 2006）。このことから、結婚・男女観など性役割に対する意識が養育行動に直接的に影響を及ぼすことが考えられる。また、母親の否定的な養育行動は幼児の攻撃性に直接影響を与えるだけでなく、愛着不安定を通して間接的にも影響していることが先行研究から明らかになっている（中道ら, 2003）。これらのことから、親が伝統主義的性役割態度だと育児困難になり、子どもの社会的行動の発達に負の影響を与える可能性が示唆された。特

受付日：2009年10月7日 受理日：2010年3月2日

埼玉医科大学保健医療学部 看護学科

に親の模倣を通して社会的行動を獲得していく時期である幼児の場合、親の養育行動が幼児の社会的行動に及ぼす影響は大きいと考えられる。

近年の経済不況の影響で伝統主義的性役割態度の強い母親が働かなくてはならない状況におかれた場合、妻は家庭を守るべきであるという役割意識により益々育児に困難をきたしてしまい、その子どもの社会的行動の発達に負の影響を与える恐れがある。現在は女性の社会進出によって、主夫として夫が家庭を守る家庭も増えてきているが、平成17年の国勢調査によると専業主婦が約710万人なのに対し、専業主夫は約350分の1の約2万人と少なく、殆どの父親は職業を持っている状況である(総務省統計局, 2005)。よって、本研究では、専業主婦を含めた母親の就労形態に焦点を当てて、両親の性役割態度が養育態度および子どもの社会的行動に及ぼす影響を検証する。

## 用語の定義

### 1. 社会的スキル領域

円滑な人間関係を営むために必要な行動という側面の領域」と定義する(中台ら, 2002a;2002b)。

### 2. 問題行動領域

「人間関係を阻害する行動という側面の領域」と定義する(中台ら, 2002a;2002b)。

### 3. 応答性

「子どもの意図・欲求に気づき、愛情のある言語や身体的表現を用いて、子どもの意図をできる限り充足させようとする行動」と定義する(中道ら, 2003)。

### 4. 統制

「子どもの意図とは関係なく、親が子どもにとって良いと思う行動を決定し、それを強制する行動」と定義する(中道ら, 2003)。

### 5. 性役割態度

「性役割に対して一貫して好意的もしくは非好意的に反応する学習した傾向」と定義し、結婚・男女観、教育観、職業観の3つの領域から成る(鈴木, 1987; 1991; 1994)。

## II. 研究目的

次の1~3を明らかにすることである。

1. 母親の就労形態別、親の性役割態度と養育態度の関係
2. 母親の就労形態別、親の性役割態度と幼児の社会的行動の関係
3. 母親の就労形態別、親の性役割態度と養育態度と幼児の社会的行動の関係

## III. 研究方法

### 1. 研究対象

首都圏にある保育所および幼稚園のうち、研究の趣旨と方法を説明し、子ども課長・保育所長の下承を得られた公立保育所3か所と、園長の下承を得られた私立保育園4か所および私立幼稚園6か所を利用している3~6歳(年少~年長)の幼児1,212名の親を対象に自記式質問紙調査を実施した。

### 2. 質問紙の内容

1) 子どもの社会的行動、2) 親の養育態度、3) 親の性役割態度については既存の尺度を使用し両親へ、4) 家族の基本属性は母親のみに調査した。

#### 1) 子どもの社会的行動

中台ら(2002)が開発した家庭用の「幼児の社会的スキル尺度」25項目を使用した。尺度は、社会的スキル領域、問題行動領域の2つの領域から構成されており、「非常によくみられる」(5点)~「まったくみられない」(1点)までの5件法とした。社会的スキル領域は、「主張スキル(25点)」「自己統制スキル(20点)」「協調スキル(15点)」の3つの因子から成り、総得点は60点満点となる。問題行動領域は、「不注意・多動行動(20点)」「引っ込み思案行動(25点)」「攻撃行動(20点)」の3つの因子から成り、総得点は65点満点となる。

#### 2) 親の養育態度

中道ら(2003)が開発した「親の養育態度尺度」16項目のうち、内容が類似する1項目を削除して使用した。尺度は、「応答性」と「統制」の2つの次元から構成されており、「ぴったりあてはまる」(4点)~「全くあてはまらない」(1点)までの4件法とした。応答性は「子どもがひとりで遊んでいて、退屈そうだなと思ったとき、加わって一緒に遊ぶ」など8項目で32点、統制は「買い物に行って玩具を買う予定が無い時に、子どもが玩具を欲しいと言って売り場から動かなくても、玩具は買わない」など7項目で28点満点となる。

#### 3) 親の性役割態度

鈴木(1987;1991;1994)が開発した「平等主義的性役割態度スケール短縮版」15項目のうち、内容が類似する1項目を削除し、男性を主語とした項目を6項目追加して使用した。内容が類似する1項目を削除した14項目の信頼性係数は、父親 $\alpha = 0.657$ 、母親 $\alpha = 0.625$ であった。6項目を追加した20項目では、父親 $\alpha = 0.641$ 、母親 $\alpha = 0.606$ と、信頼性係数に大きな差は見られず、0.6以上を保っていた為、内的整合性はほぼ満たされていると判断した。妥当性については、男性よりも女性の方が、また、無職女性よりも有職女性の方が得点は高く、先行研究(鈴木, 1996)から予測

される方向であったことから、妥当性があると判断した。得点が高いほど、性役割に対して平等主義的であり、低いほど伝統主義的であると判定し、「全くその通りだと思う」(5点)～「全然そう思わない」(1点)までの5件法で100点満点とした。

#### 4) 家族の基本属性

両親および子どもの年齢、家族構成、両親の就労状況、住居環境、子どもの入園時年齢について質問した。

### 3. データの収集方法

調査協力依頼書、質問紙、返信用封筒の入った封筒の配布と説明は保育士および幼稚園教諭が行い、各協力施設の希望に合わせて留め置き法および郵送法にて回収した。

### 4. データの分析方法

親の性役割態度は、合計得点を平均値で区分し、平均値以下を伝統主義とし、平均値以上を平等主義とした。統計解析にはSPSS (15.0J) を使用し、親の養育態度および子どもの社会的行動について、親の性役割態度2群でt検定を行い、5%を有意水準とした。

### 5. 倫理的配慮

質問紙は無記名とし、研究の依頼書を用いて研究の趣旨及び研究の協力は自由意志であること、調査に協力しないことで不利益を被らないことなどについて明記して配布し、質問紙の返信により研究の同意を得たと判断した。なお、本研究は女子栄養大学の医学倫理委員会の

承認を受けた。

## IV. 結果

### 1. 対象の概要

年少～年長児 1,212名の親へ配布した。全体の回収率は54.7%(663世帯)、父親の回収率は45.8%(555件)、母親54.5%(660件)であった。今回、母親の就労形態別に分析するため、母親の就労形態が未記入の家庭9件と父子家庭3件を除く、651世帯を分析対象とした。父親の有効回答率は84.2%(548件)、母親100%(651件)であり、そのうち5.1%(33件)は母子家庭であった。平均年齢は、父親36.8±5.9歳、母親34.5±4.7歳、対象児4.5±0.9歳であった。母親の就労形態は、無職288件(44.2%)、パート就労203件(31.2%)、常勤114件(17.5%)、その他46件(7.1%)であった。468件(73.1%)が核家族であり、子どもの人数は、2人が390件(59.4%)、3人が134件(20.4%)、1人が116件(17.7%)、4人が14件(2.1%)、5人が3件(0.5%)の順であった。

### 2. 親の性役割態度と養育態度の関係

母親の性役割態度によって両親の養育態度得点の平均値を比較した結果、母親の統制得点において、平等主義が有意に( $p < 0.01$ )高かった(表1)。同様に、父親の性役割態度によって両親の養育態度得点の平均値を比較した結果、有意な差は認められなかった。

表1. 母親の性役割態度による親の養育態度の比較

		母親の性役割態度						p
		伝統主義			平等主義			
		n	mean	SD	n	mean	SD	
母親の養育態度	応答性	337	24.1	2.6	300	23.9	3.0	**
	統制	339	24.7	2.3	302	25.2	2.1	
父親の養育態度	応答性	277	23.3	3.3	249	23.8	3.4	
	統制	270	23.9	2.8	254	24.1	2.7	

t-test (\*\* p < 0.01)

### 3. 母親の就労形態別、親の性役割態度と養育態度の関係

#### 1) 常勤

母親が常勤の場合、母親の性役割態度によって両親の養育態度得点の平均値を比較した結果、母親の統制得点において、平等主義が有意に( $p < 0.01$ )高かった(表2)。同様に、母親が常勤の場合、父親の性役割態度によって両親の養育態度得点の平均値を比較した結果、母親の統制得点および父親の統制得点において、平等主義が有

意に(母親 $p < 0.01$ , 父親 $p < 0.05$ )高かった(表3)。

#### 5) パート就労

母親がパート就労の場合、母親の性役割態度によって両親の養育態度得点の平均値を比較した結果、有意な差は認められなかった。同様に、母親がパート就労の場合、父親の性役割態度によって両親の養育態度得点の平均値を比較した結果、父親の応答性得点において、平等主義が有意に( $p < 0.01$ )高かった(表4)。

表 2. 母親の性役割態度による親の養育態度の比較 (母親が常勤の場合)

		母親の性役割態度						p
		伝統主義			平等主義			
		n	mean	SD	n	mean	SD	
母親の養育態度	応答性	46	24.3	2.4	67	24.0	2.9	**
	統制	46	23.8	2.3	66	25.2	2.1	
父親の養育態度	応答性	33	23.5	3.9	51	23.9	3.1	
	統制	28	24.0	2.6	51	24.0	3.0	
t-test							(** p < 0.01)	

表 3. 父親の性役割態度による親の養育態度の比較 (母親が常勤の場合)

		父親の性役割態度						p
		伝統主義			平等主義			
		n	mean	SD	n	mean	SD	
母親の養育態度	応答性	31	24.2	3.0	55	24.1	2.7	**
	統制	31	23.8	2.4	55	25.2	2.2	
父親の養育態度	応答性	31	24.5	3.7	54	23.3	3.1	*
	統制	29	22.9	2.9	51	24.5	2.7	
t-test							(** p < 0.01、* p < 0.05)	

表 4. 父親の性役割態度による親の養育態度の比較 (母親がパートの場合)

		父親の性役割態度						p
		伝統主義			平等主義			
		n	mean	SD	n	mean	SD	
母親の養育態度	応答性	80	24.1	2.6	80	24.8	2.7	
	統制	84	25.5	2.0	81	25.1	2.2	
父親の養育態度	応答性	83	22.9	3.4	80	24.6	3.3	**
	統制	81	24.0	2.6	81	24.0	2.6	
t-test							(** p < 0.01)	

6) 無職

母親が無職の場合、母親の性役割態度によって両親の養育態度得点の平均値を比較した結果、母親の「統制」得点において、平等主義が有意に (p < 0.05) 高かつ

た (表 5)。同様に、母親が無職の場合、父親の性役割態度によって両親の養育態度得点の平均値を比較した結果、有意な差は認められなかった。

表 5. 母親の性役割態度による親の養育態度の比較 (母親が無職の場合)

		母親の性役割態度						p
		伝統主義			平等主義			
		n	mean	SD	n	mean	SD	
母親の養育態度	応答性	165	23.9	2.7	110	23.4	3.2	*
	統制	166	24.7	2.3	109	25.3	2.1	
父親の養育態度	応答性	146	23.4	3.1	92	23.4	3.4	
	統制	146	24.0	2.9	94	24.2	2.5	
t-test							(* p < 0.05)	

#### 4. 親の性役割態度と幼児の社会的行動の関係

親の性役割態度によって子どもの社会的行動の平均値を比較した結果、両親共に有意な差は認められなかった。

#### 5. 母親の就労形態別、親の性役割態度と幼児の社会的行動の関係

##### 1) 常勤

母親が常勤の場合、母親の性役割態度によって子ども

の社会的行動の平均値を比較した結果、社会的スキル領域の総得点および自己統制スキル得点において、平等主義が有意に（社会的スキル  $p < 0.05$ 、自己統制スキル  $p < 0.05$ ）高かった（表6）。同様に、母親が常勤の場合、父親の性役割態度によって子どもの社会的行動の平均値を比較した結果、問題行動領域の引っ込み思案行動得点において、平等主義が有意に（ $p < 0.05$ ）低かった（表7）。

表6. 母親の性役割態度による幼児の社会的行動得点の比較（母親が常勤の場合）

		母親の性役割態度						<i>p</i>
		伝統主義			平等主義			
		n	mean	SD	n	mean	SD	
社会的スキル領域	総得点	44	36.0	6.0	60	39.0	6.4	*
	主張スキル	46	15.9	3.7	64	17.1	3.4	
	自己統制スキル	44	10.5	2.3	62	11.5	2.5	*
	協調スキル	46	9.6	1.9	65	10.2	2.3	
問題行動領域	総得点	46	27.8	6.9	65	26.9	5.9	
	不注意・多動行動	46	9.0	3.0	66	8.7	2.7	
	引っ込み思案行動	46	10.4	3.3	66	10.0	2.2	
	攻撃行動	46	8.3	2.6	65	8.3	2.5	
t-test							(* $p < 0.05$ )	

表7. 父親の性役割態度による幼児の社会的行動の比較（母親が常勤の場合）

		父親の性役割態度						<i>p</i>
		伝統主義			平等主義			
		n	mean	SD	n	mean	SD	
社会的スキル領域	総得点	29	36.1	5.5	52	37.8	6.0	
	主張スキル	30	15.1	3.1	52	16.3	3.5	
	自己統制スキル	29	11.6	2.7	52	11.1	2.4	
	協調スキル	29	9.9	2.9	53	9.5	2.2	
問題行動領域	総得点	29	29.4	6.1	49	28.4	5.2	
	不注意・多動行動	30	9.5	3.0	52	9.7	2.5	
	引っ込み思案行動	30	11.7	2.5	50	10.3	2.3	*
	攻撃行動	30	8.2	2.5	53	8.5	2.4	
t-test							(* $p < 0.05$ )	

##### 2) パート就労

母親がパート就労の場合、母親の性役割態度によって子どもの社会的行動の平均値を比較した結果、有意差は見られなかった。同様に、母親がパート就労の場合、父親の性役割態度によって子どもの社会的行動の平均値を比較した結果、問題行動領域の総得点および不注意・多動行動得点、攻撃行動得点において、平等主義が有意に（問題行動  $p < 0.05$ 、不注意・多動  $p < 0.05$ 、攻撃行動  $p < 0.01$ ）低かった（表8）。

##### 3) 無職

母親が無職の場合、母親の性役割態度によって子どもの社会的行動の平均値を比較した結果、社会的スキル領域の自己統制スキル得点において、伝統主義が有意に（ $p < 0.01$ ）高かった（表9）。同様に、父親が無職の場合、父親の性役割態度によって子どもの社会的行動の平均値を比較した結果、有意差は見られなかった。

表 8. 父親の性役割態度による幼児の社会的行動の比較 (母親がパートの場合)

		父親の性役割態度						p
		伝統主義			平等主義			
		n	mean	SD	n	mean	SD	
社会的スキル領域	総得点	80	36.1	6.8	76	37.9	6.2	
	主張スキル	82	16.0	4.2	76	16.4	3.7	
	自己統制スキル	82	10.6	2.3	77	11.2	2.5	
	協調スキル	82	9.1	2.5	78	9.6	2.2	
問題行動領域	総得点	83	30.3	6.0	75	27.7	7.2	*
	不注意・多動行動	83	10.8	2.8	79	9.6	3.3	*
	引っ込み思案行動	83	10.4	2.6	78	10.5	2.9	
	攻撃行動	83	9.1	2.7	79	7.7	2.8	**
t-test				(** p < 0.01, * p < 0.05)				

表 9. 母親の性役割態度による幼児の社会的行動の比較 (母親が無職の場合)

		母親の性役割態度						p
		伝統主義			平等主義			
		n	mean	SD	n	mean	SD	
社会的スキル領域	総得点	162	37.7	6.1	108	36.3	7.2	
	主張スキル	165	16.3	3.6	110	15.6	3.9	
	自己統制スキル	164	11.2	2.6	108	10.3	2.7	**
	協調スキル	168	10.1	2.0	110	10.3	2.5	
問題行動領域	総得点	156	28.4	7.5	108	27.7	6.9	
	不注意・多動行動	161	9.6	3.1	110	9.3	3.2	
	引っ込み思案行動	166	10.7	4.6	109	10.1	2.8	
	攻撃行動	163	8.0	2.8	111	8.2	2.7	
t-test				(** p < 0.01)				

## V. 考察

### 1. 母親の就労形態別, 親の性役割態度と養育態度の関係

親の性役割態度と親の養育態度の関係について、母親が常勤と無職の場合、母親が平等主義だと母親は統制的になるが、パート就労の場合は、母親の性役割態度による養育態度への影響はなかった。平等主義の母親は、理想として男女平等を望んでいるが、父親の育児休業取得率は1.56%と依然として低い状況であり(厚生労働省, 2008a)、現実として母親が家事も育児も主体になっている現状が考えられる。松田(2005)の調査によると、妻が正社員であっても妻の家事・育児分担割合は75%と、家庭生活は妻が中心的に担っていることが明らかになった。このような伝統的役割を推し進める社会において、男女平等主義を主張し続けることは、子どもに対する養育態度にも影響を与え、幼児のうちから対等平等な社会的行動を身につけさせようと、統制的にしつけを行っているとは推測できる。しかし、パート就労の場合、労働時間が通常の労働者に比べて短いことから(厚生労働省, 2008b)、社会における自己実現と時間的余裕によって、母親の養育態度は自身の性役割態度の影響をうけにくくなると考えられる。

また、父親の性役割態度については、母親が常勤の場合、父親が平等主義だと両親揃って統制的になり、パート就労の場合は、父親が平等主義だと父親は応答的となり、無職では父親の性役割態度による養育態度への影響は認められなかった。このことは、母親が常勤で父親が平等主義だと、理想として男女平等を望んでいることから、実際の育児にも積極的に参加している様子が伺え、子どもに対しても幼児のうちから対等平等な社会的行動を身につけさせようと、統制的にしつけを行っているとは推測できる。パート就労の場合、母親は時間的に余裕があることから、常勤の場合よりも父親は家事・育児の役割を強いられることはなく、子どもに対してゆとりを持って、子どもの意図を充足させようと応答的にコミュニケーションをとっていると推測できる。母親が無職の場合、父親は性役割態度に関係なく家事・育児を母親に任せることによって、両親の養育態度は父親の性役割態度に左右されないと考えられる。

今回、母親の就労形態によって、性役割態度が養育態度に及ぼす影響に違いが生じることが明らかとなったため、今後は、性役割態度に対する理想と現実のギャップが養育態度に及ぼす影響を明らかにしていく必要がある。

## 2. 母親の就労形態別、親の性役割態度と幼児の社会的行動の関係

親の性役割態度と子どもの社会的行動の関連について、全体では有意な差は認められなかったが、母親の就労形態別に検討することで特徴的な傾向が現れた。

母親が常勤の場合は、母親の性役割態度により社会的スキル領域で、父親の性役割態度により問題行動領域で有意差が認められ、母親および父親が平等主義だと、社会的行動は良好に発達すると考えられる。母親がパート就労の場合は、父親の性役割態度により問題行動領域で有意差が認められ、父親が平等主義だと、社会的行動は良好に発達すると考えられる。

しかし、母親が無職の場合は、母親の性役割態度により社会的スキル領域で有意差が認められ、母親が平等主義だと社会的行動の発達に負の影響を与える可能性が示唆された。平等主義の母親が無職の場合、男女平等を理想としつつも現実には家事・育児を母親主体で行っており、理想とはかけ離れた生活を送っている可能性がある。山口ら（2007）によると、家事・育児役割に対する母親の理想と現実との差で、12カ月までは母親の家事・育児比重が大きいほど STAI（不安尺度）と、SDS（抑うつ尺度）が有意に高いことを明らかにしている。子どもの年齢は異なるものの、理想と現実のギャップは母親を精神的に追い込み、否定的な養育態度となり、子どもの社会的行動の発達にまで影響を及ぼしていると推測される。

母親が常勤と無職の場合、共通して平等主義の母親の統制得点が有意に高いことがわかっているが、子どもの社会的行動の発達へ正反対の影響を示したことは大変興味深い結果であった。平等主義の母親が、仕事を持っていることは、子どもの社会的行動の発達にとって重要な影響因子であることが示唆された。

今回、母親の就労形態別に比較することで、親の性役割態度が子どもの社会的行動に及ぼす影響が明らかとなり、今後、子どもの社会性の促進を目指した育児支援を実施する際には、親の就労形態と合わせて親の性役割態度を把握することの重要性が示唆された。

## 3. 母親の就労形態別、性役割態度と養育態度と子どもの社会的行動の関係

母親が常勤の場合、母親が伝統主義だと母親の統制得点が有意に低く、幼児の社会的スキル総得点および自

己統制スキル得点が有意に低いことから、幼児の社会的行動に負の影響を与えることが示唆された。母親がパート就労の場合、父親が伝統主義だと父親の応答性得点が有意に低く、幼児の問題行動領域総得点と不注意・多動行動および攻撃行動得点が有意に高く、幼児の社会的行動に負の影響を与えやすい傾向にあった。同じ有職者でもパート就労の場合、幼児の社会的行動の発達には母親の性役割態度による影響を受けないことが明らかとなった。また、母親が無職の場合、母親が平等主義だと母親の統制得点が有意に高く、幼児の自己統制スキル得点が有意に低いことから、幼児の社会的行動に負の影響を与えることが示唆された。このように、性役割態度は伝統主義であるが、現実には常勤で働いている母親や、性役割態度が平等主義であるが、現実には無職の母親の場合は、母親の性役割態度が幼児の社会的行動に負の影響を及ぼしている傾向がみられた。以上のことから、子どもの社会性の促進のためには、働きたい母親が外で働き、家庭で家事・育児に専念したい母親が常勤で働かなくて済むような子育て支援の充実が望まれる。

## VI. 結論

本研究では、以下の6項目が明らかになった。

1. 母親が常勤と無職の場合、母親が平等主義だと母親の養育態度は統制的になるが、パート就労の場合、母親の性役割態度による養育態度への影響はみられなかった。
2. 母親が常勤の場合、父親が平等主義だと両親揃って統制的になり、パート就労の場合、父親が平等主義だと父親は応答的となる傾向があったが、無職では父親の性役割態度による養育態度への影響はみられなかった。
3. 母親が常勤もしくはパート就労の場合は、両親が平等主義の方が子どもの社会的行動は良好に発達する可能性が示唆された。
4. 逆に、母親が無職の場合は、母親が平等主義だと社会的行動の発達に負の影響を与える可能性が示唆された。
5. 母親が常勤の場合は母親の伝統的性役割態度が、パート就労の場合は父親の伝統的性役割態度が、母親が無職の場合は母親の平等主義的性役割態度が、幼児の社会的行動に負の影響を与える傾向があった。
6. 母親の就労形態別に比較することで、親の性役割態度が子どもの社会的行動に及ぼす影響が明らかとなり、育児支援を実施する際には、親の就労形態と合わせて親の性役割態度を把握することの重要性が示唆された。

## Ⅶ. 本研究の限界と課題

本来、子どもの社会的行動は同年代の子どもとの集団生活において観察されるため、保育士や幼稚園教諭によるデータを収集することにより実態に近い結果になると考えられる。また、既存の尺度によるデータでは、得点による傾向を知ることができても回答した設問についての実態までは把握できないため、今後、面接調査により考察を深める必要がある。

## 謝 辞

本研究の趣旨を理解し、ご協力いただきました子ども課長様、公立保育所3か所の保育所長様、私立保育園4か所および私立幼稚園6か所の園長先生、保育士・幼稚園教諭の皆様にご心より感謝いたします。本稿の成果は、お忙しい中、調査にご協力くださいました保護者の皆様のお陰であり、心より感謝申し上げます。

なお、本研究の一部は、平成20年度埼玉医科大学保健医療学部プロジェクト研究(SMU-SMTH Grant 08-003)の助成を受けて実施し、平成21年度日本看護科学学会で発表したものである。

## 文 献

厚生労働省(2008a):平成19年度雇用均等基本調査。  
厚生労働省(2008b):パートタイム労働法。  
松田茂樹(2005):育児期の共働き夫婦のワーク・ライフ・バランス,第一生命経済研究所 LifeDesign REPORT, 7, 16-23.

民主教育研究所(2008):Women & Men in Japan 日本のジェンダー統計 No.3, p16. 図表 3-1, 図表 3-2.  
内閣府(2007):男女共同参画社会に関する世論調査。  
中台佐喜子, 金山元春(2002a):幼児の社会的スキルと孤独感, カウンセリング研究, 35, 237-245.  
中台佐喜子, 金山元春, 前田健一(2002b):幼児の仲間集団における人気度と社会的スキル—同性仲間と異性仲間からの評価—, 広島大学心理学研究, 2, 151-157.  
中台佐喜子, 金山元春(2004):母親の養育態度が幼児の社会的スキルに及ぼす影響, 家庭教育研究所紀要, 26, 61-66.  
中道圭人, 中澤潤(2003):父親・母親の養育態度と幼児の攻撃行動との関連, 千葉大学教育学部研究紀要, 51, 173-179.  
総務省統計局(2005):平成17年国勢調査。  
鈴木淳子(1987):フェニズム・スケールの作成と信頼性・妥当性の検討, 社会心理学研究, 2, 45-54.  
鈴木淳子(1991):平等主義的性役割態度:SESRA(英語版)の信頼性と妥当性の検討および日米女性の比較, 社会心理学研究, 6, 80-87.  
鈴木淳子(1994):平等主義的性役割態度スケール短縮版(SESRA-S)の作成, 心理学研究, 65, 34-41.  
鈴木淳子(1996):若年女性の平等主義的性役割態度と就労の関係について—就労経験および理想の仕事キャリア・昇進パターン, 社会心理学研究, 11, 149-158.  
玉里八重子, 岡山久代(2006):0~3歳児をもつ母親の養育意識・行動に対する父親及び母親の性役割態度の影響, 滋賀医科大学看護学ジャーナル, 4(1), 40-44.  
山口孝子, 堀田法子, 下方浩史(2007):産後3年間における母親の精神状態と性役割に関する縦断的研究, 小児保健研究, 66(4), 551-560.